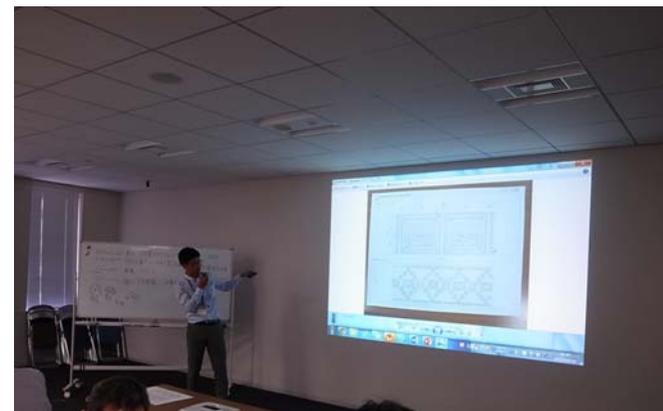
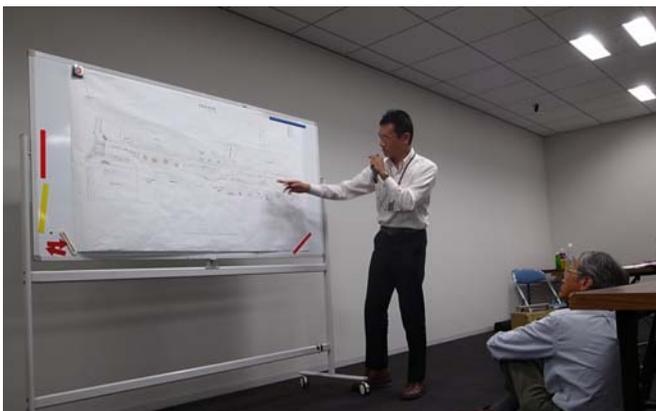
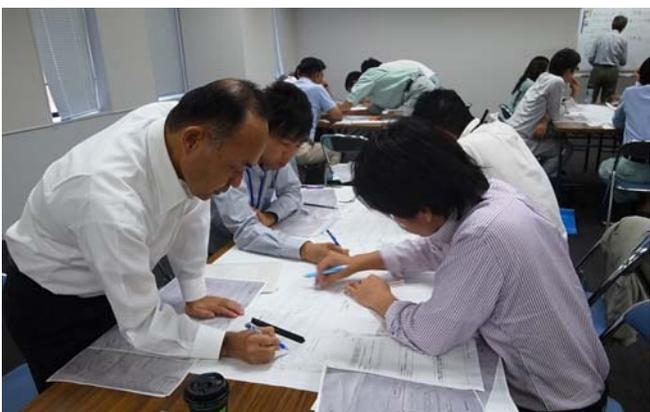


- 公共施設は、地域の景観を形成する大きな要素の一つです。
- 山梨県 美しい県土づくり推進室では、景観に配慮した公共施設の設計を実践的に習得するために、平成26年度から『景観設計職員研修』を実施しています。
- 対象者：県公共3部（森林環境部、農政部、県土整備部）職員、県内市町村職員
- 講師：堀 繁 氏（東京大学アジア生物資源環境研究センター・センター長 教授）
- 研修概要：
 1. 講師より「景観の基礎」について講義。
 2. グループ演習により、受講者自ら景観に配慮した設計を行う。
 3. 現地研修を行い、講師より「良い景観」「悪い景観」の解説。

【H27年度実績】

- 参加人数：55名
（うち市町村職員5名）
- 研修スケジュールは、右記のとおり

日時	時間	内容	詳細等
1日目 9/25(金)	9:00～11:00 [120分]	全体講義	・演題:「景観の理論～公共整備における景観配慮のポイントは何か～」
	11:00～12:00 [60分]	演習講義	・グループ演習を行うための講義
	13:00～15:00 [120分]	グループ演習①	・道路線形の検討 → 班毎発表
2日目 9/30(水)	9:00～11:00 [120分]	現地研修	・県庁周辺を徒歩移動
	11:00～12:00[60分]	グループ演習②	・舗装デザイン、休憩スペース設計、ベンチ・植栽のレイアウト
	13:00～15:00 [120分]	グループ演習③	・演習②の続き →班毎発表



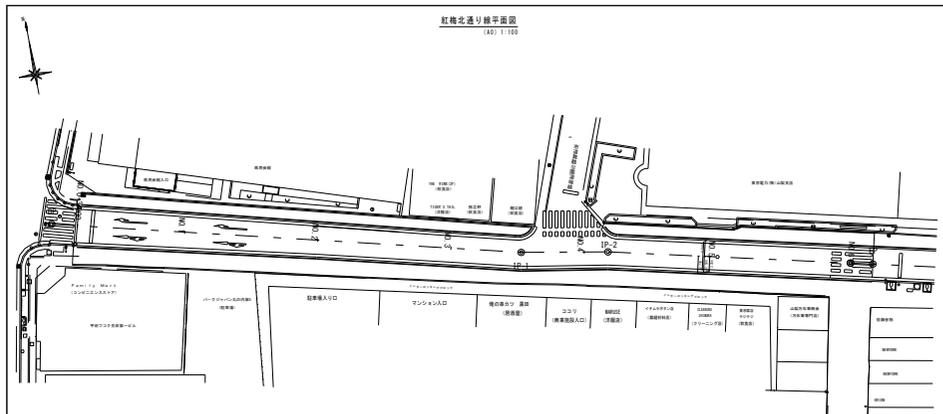


県庁周辺の①～⑤を歩きました。
各箇所では堀先生より、解説して頂き、新しい視点で街を見ることが出来ました。



※舗装デザイン設計は、鉛筆1本により2色（白黒）のみでの検討としました。

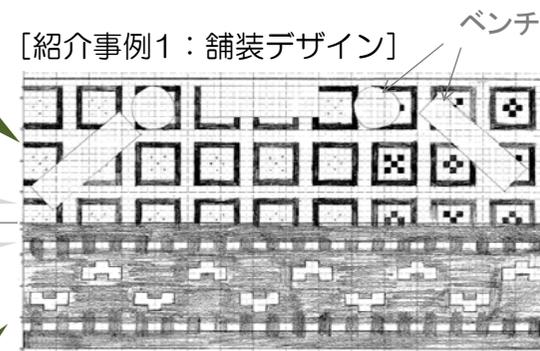
[元図面]



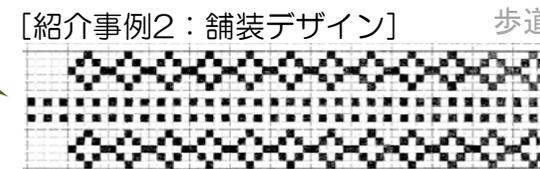
グループ演習の結果、ホスピタリティにあふれた道路空間となりました。

休憩スペースと歩道で、舗装のデザインを変えるだけでも、自己領域を形成することができます。

休憩スペース
歩道



歩道に、ゲシュタルト(図)の形成によるアフォーダンス(人を導くデザイン)を入れることで、歩行者を快適に誘導することができます。



[紹介事例3：道路線形の変更と休憩スペースを設けた平面図]



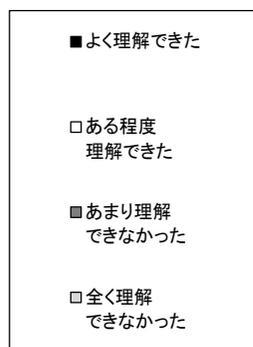
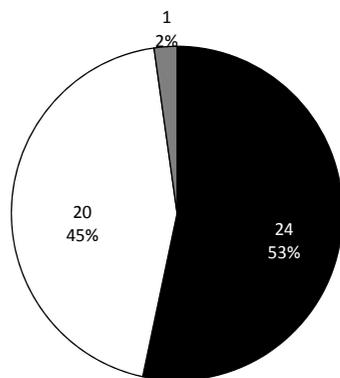
ベンチの両脇に街路樹を置くことで、自己領域を形成し、居心地の良い空間となります。

車道をスラローム化し、自動車の走行速度を軽減することで、歩行者をもてなします。

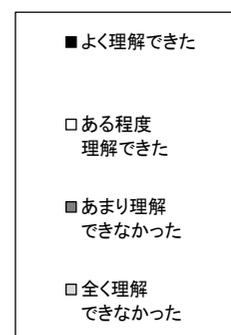
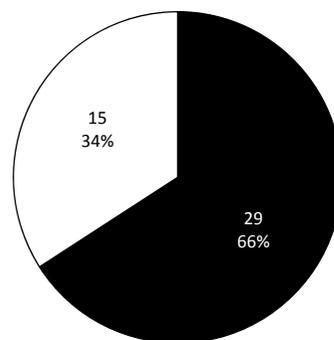
ベンチに座って楽しそうにしている人達を見ることで、歩行者も楽しい気分になります。

- 景観に対する考え方が変わった。今まで、様々な研修を受けてきたが、ここまで話を聞いて、のめりこんだのは初めてだった。
- 景観の意味が理解できた。景観とは、お金をかければ良いと思っていた。
- 良い景観、悪い景観の要因を具体的に解説されたため、理解が深まった。
- 景観が全く主観的なものではなく、指標があることに気づかされました。
- 技術よりも大切なものがあるとわかった。もっと早く全職員が研修を受けるべきだと感じた。
- 自分の設計で、県内の景観をより良くしていきたい。

[グループ演習について]



[現地研修について]



⇒平成28年度についても、同様の内容で研修を実施します。